



## あなたは麻疹（はしか）にかかりましたか？ それとも予防接種受けましたか？



日本は2015年3月27日から、国内発の麻疹が3年以上発生していない「排除状態」でした。しかし今年、台湾からの旅行者が麻疹（はしか）感染に気付かず観光し、沖縄県の人々にうつしました。愛知県内では沖縄を旅行した麻疹患者が受診し、対応した病院職員が感染し、そこから市中へ感染が広がっていきました。麻疹は予防接種で防げます。もう一度対策を考えてみましょう。

### ○麻疹（はしか）とは？（感染症法：5類感染症 全数届出）

- ・原因ウイルス：麻疹ウイルス ・潜伏期は：10～11日
  - ・前駆期（カタル期：3～4日）：発熱して光をまぶしく感じるようになり咳嗽、くしゃみ、鼻汁などが増加します。発熱して2～3日後には口内にコプリック斑が生じます。一度解熱しますが、半日ほどで再び高熱を発生し、顔・耳の後ろ・首などに皮疹が始めると前駆期の症状は消失します。
  - ・発疹期（4～5日）：再び高熱を発生し、顔・耳の後ろ・首などに皮疹が始めます。
  - ・回復期：ばら色の皮疹が暗紫色に退行し、多少の痕跡を残しながら消滅していきます。
- ※一度かかると終生免疫を得る事になります。

10日～12日前に  
沖縄に旅行していませんか？

沖縄で麻疹（はしか）が流行しています。発熱や発疹で受診の方で10日～12日前に、沖縄に訪問している方は事前に総合受付へ申し出てください。

■麻疹（はしかの症状）

- ・感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れる。
- ・2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現する。

金沢医科大学米見市民病院 感染対策室

### ○なぜ麻疹が怖い？

空気感染するウイルスであり体育館に患者が一入いたら体育館内の全員が感染すると言われるほど感染力の強い病原体です。また、麻疹患者約1,000人に1人の割合で脳炎になる人や死者がでることもあります。さらに、数年から10数年経過後、亜急性硬化性全脳炎(SSPE)という重い脳炎を発症することも報告されています。

### ○治療と予防は？

発症した場合は特別な治療はなく、対症療法のみであり一般的に予後はよいとされています。しかし回復しても感染を広げないためにもしばらく外出はできません。受診の時もほかの患者にうつす危険があるため、事前に連絡して受診することが必要です。また患者と接触して数日以内の場合はワクチンやガンマグロブリンで抑えることができる可能性があります。しかし、一番効果的なのはかかると前にワクチンを接種し免疫をつけることです。

### ○麻疹ワクチンについて

ワクチンを接種すると95%以上の人が麻疹の免疫を獲得できると考えられています。ワクチンに空白期間があり感染危険度が高い世代があります(表参照)。麻疹抗体価を測る事で自分に麻疹の抗体があるかどうかを調べることができます。予防接種を打った記憶がない、もしくはわからない人、今まで麻疹に罹患したことがない人は医療機関で抗体価を測り、基準値より低い場合にはワクチンを打つ事が感染予防につながります。

| 出生時期               | 予防接種の有無                      | 免疫                    |
|--------------------|------------------------------|-----------------------|
| 1977年以前の出生         | 予防接種は任意⇒一度も接種していない可能性        | 自然感染で免疫獲得が多い          |
| 1978年～1990年4月1日の出生 | 1回接種or一度も接種していない可能性          | 免疫あり/なしが混在★感染危険度が最も高い |
| 1990年4月2日以後の出生     | 2回接種する機会があった※キャッチアップキャンペーンあり | 免疫獲得可能性高い             |

出生時期とワクチン接種：空白期間の集団

# 第1回 院内感染対策講習会報告

H30年度第1回院内感染対策講習会を5月29日(火)に開催しました

## <今回の講習会のテーマ>

### 1、院内感染対策マニュアルの改訂

3月末に改訂。組織、感染経路別予防対策、薬剤関連について説明

### 2、診療報酬と抗菌薬適正支援

厚生労働省が進める薬剤耐性(AMR)対策に基づいて診療報酬に抗菌薬適正使用支援加算が追加になりました。当院での抗菌薬適正使用支援チーム(AST)について説明



## ※研修終了後のアンケートに講演内容の質問をしましたので解答・解説を掲載します

研修会当日の参加数：275名(院外参加者6名含む)

| 設問                                  | 選択肢(■が解答)  | 解説   |
|-------------------------------------|--|--|
| 麻しん抗体陽性(基準を満たす)者が麻しん患者をケアする時装着するものは | <input type="checkbox"/> a.N95 マスク<br><input checked="" type="checkbox"/> b.サージカルマスク<br><input type="checkbox"/> c.つけなくてよい                                 | <p>誰がどのマスクを装着するか？</p> <p>患者<br/>サージカルマスク</p> <p>スタッフ・家族<br/>麻疹抗体が陰性または陽性だが基準を満たさない<br/>ワクチン未接種<br/>...N95マスク</p> <p>麻疹抗体陽性(基準を満たす)<br/>...サージカルマスク</p> <p>(講習会スライドより抜粋)</p>  |
| アルコール擦式手指衛生消毒剤の使用期限はどれだけか           | <input type="checkbox"/> a.1カ月<br><input type="checkbox"/> b.3カ月<br><input checked="" type="checkbox"/> c.6カ月  | <p>速乾性手指消毒剤の有効成分(アルコール、クロルヘキシジン、ベンザルコニウム塩化物など)はいずれも、数年間にわたって安定です。ただし、開封後の安全性や物流在庫の観点から当院では6か月と定めています</p>   |
| 感染対策室の中の組織はどれか                      | <input checked="" type="checkbox"/> a.感染対策チーム(ICT)<br><input type="checkbox"/> b.リスクマネージャー会(SMG会)<br><input checked="" type="checkbox"/> c.抗菌薬適正支援チーム(AST) | <p>感染対策室：院内外の感染対策に関する事象に取り組み、ワーキングチームの立ち上げや管理を行う。</p> <p>①感染対策チーム(ICT)：院内感染対策ラウンドや感染症発生時の対応、感染対策の具体的な方法の検討など感染対策の実務を担当する。</p> <p>②抗菌薬適正使用支援チーム(AST)：抗菌薬使用状況を把握、モニタリングなど抗菌薬適正使用の支援を行う。</p> <p>(院内感染対策マニュアルより抜粋)</p> |

## <感想：受講調査票記載内容を抜粋>

- ・感染対策をしっかり行うことで病院の経費削減、抗菌薬の適正使用を守り、更に患者さん1人1人を守ることができ、改めて大切なことを実感させられた。
- ・麻しん抗体の有無を確認しようと思うきっかけになった。

